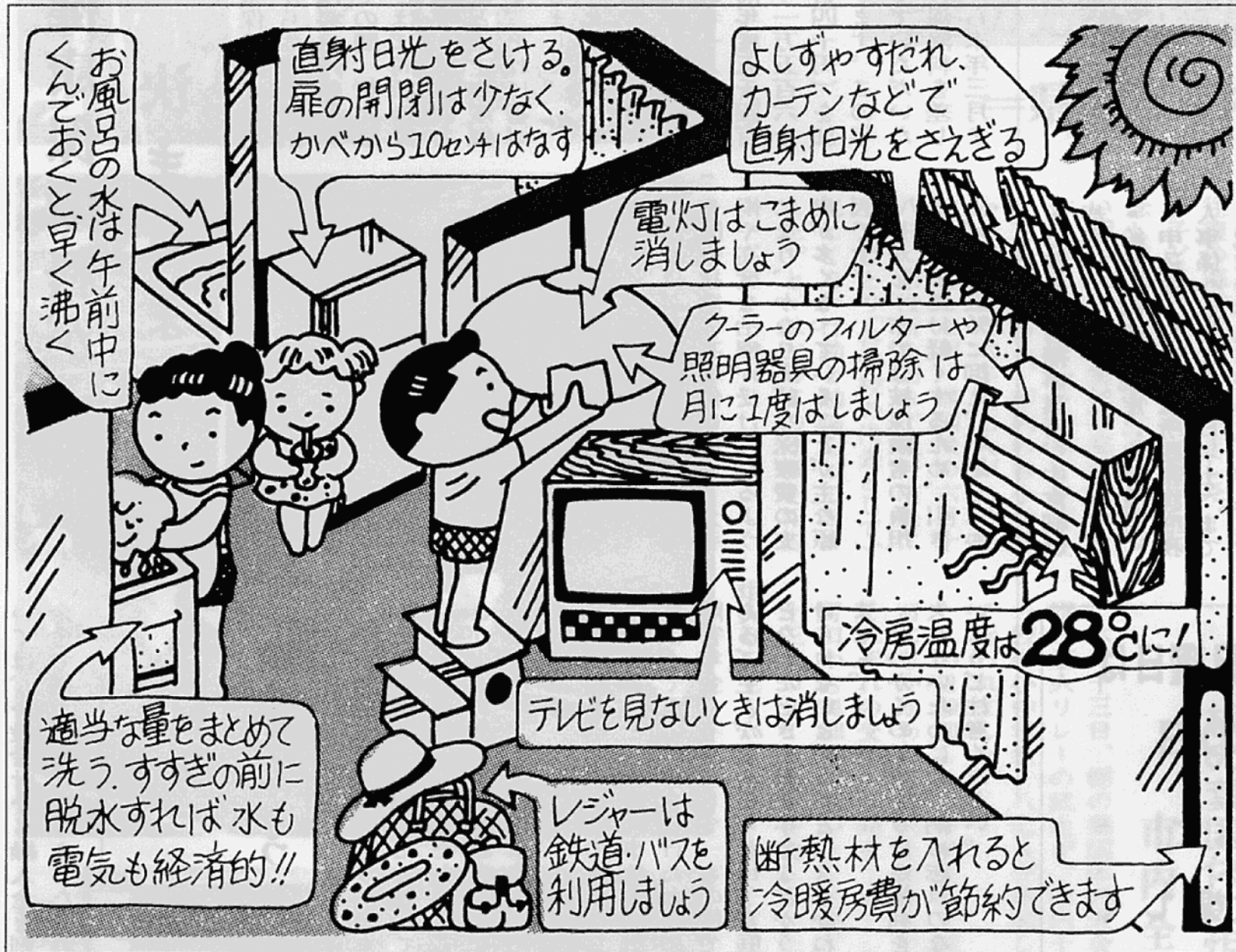


夏の省エネルギー

家庭の 対策

10の提案



いま、国をあげて七%の石油消費節約を進めていることは、みなさんよくご存じの通りです。猛暑の夏は、クーラーの使用が増えるなど、電気をはじめとするエネルギーの消費が増大します。ご家庭におかれては、ことしの夏は次のような工夫をされて、省エネルギーにご協力いただくようお願いいたします。

アメリカカシロヒトリの防除は早めに

緑の葉を食いあらずアメリカカシロヒトリの発生時期になりました。〔菓のみつけ方〕アメリカカシロヒトリは、七月頃と九月頃の二回発生し、サクラ、ポプラの葉などに好んで産卵し、卵からかえった幼虫は、糸をはいて巣をつくり十日間くらいかたまっています。幼虫は、はじめ葉の葉脈だけを残して食べるのでその

葉だけすけて見えます。〔菓の処分〕大きくなった幼虫は、菓から離れてしまうので、分散する前に枝葉を切り取って焼いてください。〔薬剤散布〕発見が遅れて、すでに分散したときは、農薬殺虫剤を散布して防除しますが、薬剤散布をするときは、危害防止に十分注意してください。

「マムシ」にかまれたら

マムシの咬傷被害は、おもに七月から九月にかけて多く発生します。マムシに咬まれると、蛇毒は血管から全身にまわり、放置しておくくと死亡することもあります。

マムシに咬まれたときの治療には「マムシの血清」が必要ですが、この血清は需要が少ないのと有効期限が短いので、一般の医療機関や保健所にも血清は保管してありませんが、医薬品卸売業者には常に保管しており、医療機関等からの要請があればいつでも緊急に届けられる体制をとっています。

咬まれたときの応急処置としては、まず傷口を口で強く吸い、毒液を出し同時にひもか布片で傷口から心臓に近い部分を強くしばり、毒液が血管やリンパ管に流れないようにします。できれば局所を氷か冷水で冷やすと血管が収縮し、蛇毒の拡散がある程度抑えられますが、すぐに医師の手当てを受けることが最も大切です。

患者を最寄りの病院か診療所に運ぶと同時に、できれば前もってマムシに咬まれたことをその病院・診療所に連絡して、血清の手配を頼んでおくこと時間的にもロスがなく治療を受けることができます。